

出張所からセンターへ

名称が変わる

今年四月から、市役所海蔵出張所が海蔵地区市民センターという名称に変わりました。

これは単に呼び名が変わったというだけではありません。従来の出張所業務に公民館業務が付け加えられ、土木、下水、ゴミなどの問題のほか、地域福祉や文化の向上を図り、住民と行政とが一体となって、住みよい豊かな地域社会づくりを目指そうとするものです。その拠点となるのが地区市民センターです。

さて、ひと足先にセンター化された三重、四郷などでは、新しい建物に充実した設備が整

い、多くの地域住民の方々の活動の場となっております。

二、三年後には新築される予定になっておりますが、この間は従来の出張所(センター)会議室を使ったり、小学校、保育園その他各地区集会所などを利用

させて戴きながら、活動を推進してゆきたいと考えております。

皆さんのお知恵を拝借し、皆さんと共によりよい海蔵地区づくりに努力したいと考えております。どうかご協力をお願い致します。

新職員構成

四月定期人事異動により、左記の職員で、センターの運営にあたることになりました。一同誠意をもって職務を遂行致したいと思っております。海蔵地区の皆様方には、よろしくご協力の程、お願い申し上げます。

- 館長 杉野 庄衛
- 副館長 田中 久敬
- 同 黒宮 吉彦
- 主事 伊藤 千恵子
- 試補 田村 周子
- 用務員 三谷 キヨ

地域福祉を考える

社会福祉協議会会長

児島 清夫

「福祉」と言いますと、多くの方が老人や心身障害者、あるいは母子家庭といったことを思い浮べるに違いありません。その通りだと思います。

もちろん、単にこれだけを意味するわけではありませんが、大まかに言えば「社会的弱者の救済」と解することができます。つまり、「福祉社会」とか「福祉の向上」とは、誰もが「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」を、国が積極的に保障することに他なりません。

その結果としての施策が、老人医療の無料化とか、各種の年金制度、あるいはいろんな福祉施設の建設、整備といったこと

に表われてきています。年毎にきめの細かい福祉施策が講じられ、昔と比べようがない程、その進歩には目を見張るものがあります。

が、一転して私たちの住む地域を見てもみると、それだけでは充分かつ完全でないことがわかります。そのため、海蔵地区社協では、以前から様々な事業と取り組んで参りました。この表紙にある「独居老人訪問」事業や、カギっ子の子のための「留守家庭児童保育」事業など、その代表であります。

主 張

最近の大人は、よその子どもを叱ったりしなくなりました。いや大体、自分の子どもをもあまり叱ることがない。

核家族世代に、一般に一番大切に考えられているのは、家庭で子どもが中心となるような平和やだんらんである。だから、子どもは親の愛する大切なものであるから、ガミガミとなりつけないで、きかないだろう。だから、自分の子どもが他人に叱られたりすると、ひどく腹を立て、文句もいう。それ故、注意した方も不快になるから、以後は見えないふりをする。そういうようなことから、今ほど、子ども全体が「放任」されている時代はない。

昔は子どもに対する社会の

よその子どもも叱ろう！ 青少年の非行に監視の目を

監視はきびしかった。盛り場や歓楽街では、特に怖い目が光っていて、不審な子どもを見かけると警察官ばかりでなく、一般の人々によつても注意されることも多かった。こうしたきびしさが、子どもの家出、非行、自殺などを救ったのは数知れなかった。

子どもの人格も勿論尊重する必要はあるし、身心ともに未熟なのだから、大人より大事に扱うのは当然だがこれと放任とは異なると思う。

子どもも社会に生きるのだからルールは守らせなければならぬ。

四日市市にも地域住民全員参加の青少年育成市民会議というものが出て、みんなで青少年を健全に育成しようとして

います。私たちの郷土から非行少年が生まれないう、みんなが勇気をもって「よその子どもを叱ろう」ではありませんか。

山手中 T・T

像都市すめざの市の四日

明るい福祉都市
文化を創造する都市
自然と調和する都市
活力ある総合産業都市

その結果としての施策が、老人医療の無料化とか、各種の年金制度、あるいはいろんな福祉施設の建設、整備といったこと

に表われてきています。年毎にきめの細かい福祉施策が講じられ、昔と比べようがない程、その進歩には目を見張るものがあります。

が、一転して私たちの住む地域を見てもみると、それだけでは充分かつ完全でないことがわかります。そのため、海蔵地区社協では、以前から様々な事業と取り組んで参りました。この表紙にある「独居老人訪問」事業や、カギっ子の子のための「留守家庭児童保育」事業など、その代表であります。

